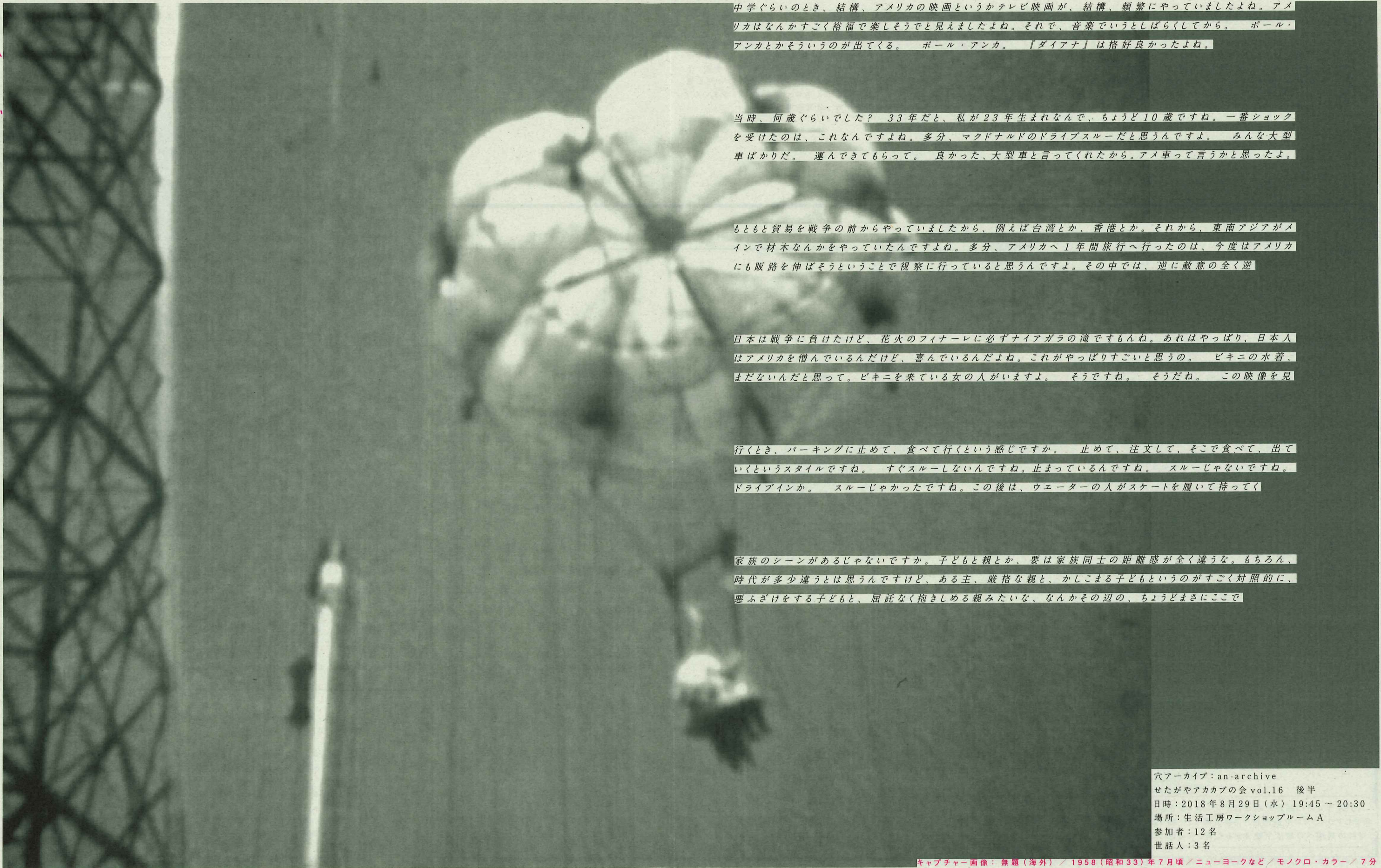




中学ぐらいのとき、結構、アメリカの映画というかテレビ映画が、結構、頻繁にやっていましたよね。アメリカはなんかすごく裕福で楽しそうだと見えましたよね。それで、音楽でいうとしばらくしてから。 ポール・アンカとかそういうのが出てくる。 ポール・アンカ。 『ダイアナ』は格好良かったよね。

当時、何歳ぐらいでした？ 33年だと、私が23年生まれなんで、ちょうど10歳ですね。一番ショックを受けたのは、これなんですよ。多分、マクドナルドのドライブスルーだと思うんですよ。 みんな大型車ばかりだ。 運んできてもらって。 良かった、大型車と言ってくれたから。アメ車って言うかと思ったよ。

もともと貿易を戦争の前からやっていましたから、例えば台湾とか、香港とか。それから、東南アジアがメインで材木なんかをやっていたんですよ。多分、アメリカへ1年間旅行へ行ったのは、今度はアメリカにも販路を伸ばそうということで視察に行っていると思うんですよ。その中では、逆に敵意の全く逆

日本は戦争に負けたけど、花火のフィナーレに必ずナイアガラの滝ですもんね。あれはやっぱり、日本人はアメリカを憎んでいるんだけど、喜んでいるんだよね。これがやっぱりすごいと思うの。 ビキニの水着、まだないんだと思って。ビキニを来ている女の人がいますよ。 そうですね。 そうだね。 この映像を見

行くとき、パーキングに止めて、食べて行くという感じですか。 止めて、注文して、そこで食べて、出ていくというスタイルですね。 すぐスルーしないんですよ。止まっているんですよ。 スルーじゃないですね。 ドライブインか。 スルーじゃかったですね。この後は、ウェーターの人がスケートを履いて持ってく

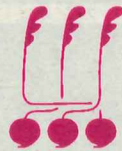
家族のシーンがあるじゃないですか。子どもと親とか、要は家族同士の距離感が全く違うな。もちろん、時代が多少違うとは思いますが、ある主、厳格な親と、かしこまる子どもというのがすごく対照的に、悪ふざけをする子どもと、屈託なく抱きしめる親みたいな、なんかその辺の、ちょうどまさにここで

穴アーカイブ：an-archive
せたがやアカカブの会 vol.16 後半
日時：2018年8月29日（水）19:45～20:30
場所：生活工房ワークショップルームA
参加者：12名
世話人：3名

キャプチャー画像：無題（海外）／1958（昭和33）年7月頃／ニューヨークなど／モノクロ・カラー／7分

穴アーカイブ：an-archive

記録を残すという営みを、記録が残らないこと、すなわち、記録の不在（穴）から捉え直す反（an）アーカイブ的アーカイブの試み。昭和30～50年代にかけて市販された8ミリフィルムという映像メディアに着目し、世田谷のまち、ひと、くらしに光をあてる。2015年から始動。



せたがやアカカブの会：The setagaya akakav circle

穴アーカイブにおいてデジタル化した映像を、じっくり観ながら語り合う小さな集いの場。ほぼ隔月で開催。開催予定、上映内容は、生活工房HPまたはくお問い合わせ>からご確認下さい。一見さん大歓迎。本誌くかぶうずら、やまいもうなぎ>は、当会の断片的・公式活動記録。

高さ160mの鉄骨の上で「鉄塔トビ」と呼ばれた職人さんたちが、空撮カメラを見えています。フィルムが撮影された当時、日本では東京タワー建設の真っ最中でした。これは「東京の屋根の上」と題された連載で、この他に「日劇屋上の踊り子たち」「女性客が増えたビアガーデン」「猫の額」の屋上でゴルフ」といった記事が続きます。



1964年4月に海外渡航が自由化されるまでは、限られた日本人が仕事や交遊のために海外渡航していました。映像ではドライブインや遊園地、自然公園など、観光地をまわる様子が見られ、豊かなアメリカのイメージが印象に残ります。当時の異国への旅は今映像をみた皆さんの目にはどう映るのでしょうか。

地図資料：「北アメリカ州 地名欧文併記」昭和31(1956)年 日本地図学会



かぶうずら、やまいもうなぎ アカカブの会の記録2018 no.4
発行日：2018年10月16日

お問い合わせ：生活工房 03-5432-1543 info@setagaya-ldc.net
編集：せたがやアカカブの会世話人（松本篤、八木寛之、成田海波、ブルサコワありな）
主催・発行：公益財団法人せたがや文化財団 生活工房
〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
http://www.setagaya-ldc.net/
企画制作：remo [NPO法人記録と表現とメディアのための組織]
後援：世田谷区、世田谷区教育委員会

本誌の無断転写、複製、転載を禁じます。